

詳細診断カルテ (1/4)

事務所		調査日		調査者		
路線名		距離程	上 下 中央	調査者		
樹木番号		樹種				
植栽地盤	☐ 植栽樹 ()m × ()m, ☐ 植樹帯幅 ()m, ☐ その他					
生育条件調査及び障害対象調査						
生育環境調査	植栽地形状			利用者	なし ☐ あり ☐	
	気象による影響			建築物	なし ☐ あり ☐	
保護材調査	支柱	なし ☐ あり ☐	障害対象調査	交通施設(信号、標識等)	なし ☐ あり ☐	
	支柱の損傷、食い込み	なし ☐ あり ☐		その他施設	なし ☐ あり ☐	
	支柱の結束不良	なし ☐ あり ☐		架空線	なし ☐ あり ☐	
	踏圧防止板の損傷	なし ☐ あり ☐		地下利用	なし ☐ あり ☐	
	食い込み	なし ☐ あり ☐		視距	なし ☐ あり ☐	
	縁石の損傷、食い込み	なし ☐ あり ☐		樹洞の利用	なし ☐ あり ☐	
	舗装の損傷	なし ☐ あり ☐	希少野生動物	(種類又は特徴:)		
植栽地調査	周辺の土地利用					
樹木健全度調査						
外 観 調 査						
樹木形状等	形状寸法	樹高(m)	幹周(cm)	枝張り(m)	根元周(cm)	
	樹体の傾き	なし ☐ 傾いた後、上に伸張 ☐	根元から傾いている(小) ☐ 根元から傾いている(大) ☐			
樹木活力	樹勢	良い ☐ 普通 ☐ 少し悪い ☐ 悪い ☐				
	剪定箇所の癒合組織成長	良い ☐ 普通 ☐ 少し悪い ☐ 悪い ☐				
地上部の欠陥	枯れ枝	なし ☐ あり ☐ (本)	幹の亀裂 なし ☐ あり ☐ (本)			
	ぶら下がり枝	なし ☐ あり ☐ (本)	幹や枝の癒合 なし ☐ あり ☐			
	枝葉の偏り	なし ☐ あり ☐	病害虫			
	枝の亀裂	なし ☐ あり ☐ (本)	根元の揺れ なし ☐ あり ☐			
	傷(樹皮欠損)	なし ☐ 小 ☐ 大 ☐	中心に達した開口空洞長の割合 開口長 _____ cm × 幹周 _____ cm 深さ _____ cm / 幹直径 _____ cm			
	開口空洞	なし ☐ 小 ☐ 大 ☐				
	腐朽	なし ☐ 小 ☐ 大 ☐				
	キノコ	なし ☐ あり ☐				
	(種類又は特徴: 枝、カワラタケ様)		精密調査の必要性 なし ☐ あり ☐			
	打音	異常音なし ☐ 異常音あり ☐	必要性のコメント:			
根系異常	隆起	なし ☐ 小 ☐ 大 ☐				
	露出根の腐朽	なし ☐ 小 ☐ 大 ☐	土壌の盛り なし ☐ 小 ☐ 大 ☐			
	キノコ	なし ☐ あり ☐	特殊な植栽基盤 なし ☐ あり ☐			
	(種類又は特徴:)	(種類又は特徴:)				
	鋼棒貫入	異常なし ☐ 異常あり ☐				
	ガードリングルーツ	なし ☐ あり ☐	精密調査の必要性 なし ☐ あり ☐			
	土壌の流亡	なし ☐ 小 ☐ 大 ☐	必要性のコメント:			
	土壌の踏み固め	なし ☐ 小 ☐ 大 ☐				
	精 密 調 査 (腐朽部断面調査又は根株調査)					
	診断結果			コメント		
幹断面に対する腐朽面積割合						
幹半径に対する健全材厚の割合						
根系の腐朽状態						

精密調査の必要性の判断基準

地上部欠陥: 樹幹部の腐朽部、及び内部腐朽の可能性がある箇所、その腐朽割合が30%を超えると推定される場合、精密調査を行う。

根系異常 : 「地上部と関連する異常、根系の切断、露出根の腐朽、キノコ、鋼棒貫入」の欠陥が認められ、樹木活力等から勘案しても、根系腐朽が進行していると考えられる場合に、精密調査の必要性を認める。特に、根株心材腐朽菌であるベッコウタケ等の大量発生には、注意が必要である。

詳細診断カルテ（2/4）

危険度評価及び改善的処置				
欠陥の種類	危険度評価	危険度評価の内容		
樹木の地上部	枯れ枝	A ☐	B ☐	
	枝の障害	A ☐	B ☐	
	枝の亀裂	A ☐	B ☐	
	枝の癒合	A ☐	B ☐	
	傷（樹皮欠損）	A ☐	B ☐	
	開口空洞	A ☐	B ☐	
	腐朽状態	A ☐	B ☐	
	隆起	A ☐	B ☐	
	幹の亀裂	A ☐	B ☐	
	幹の癒合	A ☐	B ☐	
	樹体の傾き	A ☐	B ☐	
	根元の揺れ	A ☐	B ☐	
	支柱の食い込み	A ☐	B ☐	
	根系	根系腐朽	A ☐	
ガードリングルーツ		A ☐	B ☐	
土壌の流亡		A ☐	B ☐	
土壌の盛り上り		A ☐	B ☐	
植栽基盤の特殊性		A ☐	B ☐	
縁石の食い込み		A ☐	B ☐	
踏圧防止板の食い込み		A ☐	B ☐	
処置の方針				
総 合 評 価		A ☐ B ☐ C ☐		
地上部、根系の評価基準	A:「概ね異常なし」 B:「すぐには倒伏、枝折れ等の可能性は低いが、危険性を有している」 C:「すぐに倒伏、枝折れに繋がる危険性が非常に高い」			
総合評価基準	A:「全ての項目が“A”」 B:「開口空洞、腐朽面積割合、健全材厚の割合、枯れ枝、枝の障害・亀裂・癒合、傷（樹皮欠損）、隆起、幹の亀裂・癒合、根元の揺れ、樹体の傾き、根系腐朽のいずれかに“B”がある」 C:「開口空洞、腐朽面積割合、健全材厚の割合、枯れ枝、枝の障害・亀裂・癒合、傷（樹皮欠損）、隆起、幹の亀裂・癒合、根元の揺れ、樹体の傾き、根系腐朽のいずれかに“C”があり、その他の項目には“B”あるいは“C”がある」			
＜処置の実施状況＞				
改 善 的 処 置 ☐ 伐 採 更 新 ☐				
処置実施日	処置の内容			
判断基準：総合評価が“C”であれば原則伐採更新。“B”であれば欠陥に応じた最適な改善的処置を選定。“A”は通常の維持管理。				
評価サイクル				
モニタリング調査時期	☐ 2年後		☐ 5年後	
調査(評価)項目				
判断基準：総合評価がAであれば5年後、Bであれば2年後を目安とする。				

詳細診断カルテ（3/4）

基 本 情 報

位置図

写真

樹木番号:

樹 種:

樹 高: m

幹 周: cm

生育条件調査及び障害対象調査

写真

生育環境:

土地利用:

障害対象:

詳細診断カルテ（4/4）

地上部の欠陥		
写真	写真	写真
写真	写真	写真
根系異常		
写真	写真	写真